

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2783 号	氏 名	谷 英 己
審 査 委 員 会	主 査 教 授	亀 岡 信 悟	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>胃癌の中でもスキルス胃癌など diffuse growth type の癌腫は早期診断が困難で発見時既に進行癌で予後不良のことが多い。癌細胞の遊離や浸潤の上で細胞増殖因子は重要な役割を担っており、線維芽細胞 Fibroblast growth factor (FGF) なかでも FGF-7 (Keratinocyte Growth Factor: KGF) が胃癌の増殖・浸潤にどのように関与するかを、血清学的、免疫組織学的に検討した。</p> <p>【対象および方法】対象は胃癌切除症例 86 例である。①血清 KGF 値と臨床腫瘍学的因子の関係、②血清 KGF 値と免疫組織学的 KGF 発現の関連性、③血清 KGF 値と免疫組織学的 K-sam 発現の関連性について検討した。【結果】血清 KGF 値と臨床腫瘍学的因子の検討では肉眼分類 0,1,2,3 型 $10.747 \pm 3.571 \text{ pg/ml}$ に比し、4,5 型は $14.498 \pm 3.821 \text{ pg/ml}$ と有意に高値を示した ($p=0.028$)。免疫組織学的検討における KGF 発現では血清 KGF 値と正の相関 ($p=0.0198$) を示した。また免疫組織学的 K-sam 発現は血清 KGF 値と正の相関 ($p=0.0177$) を示した。</p> <p>【考察、結論】血清 KGF 値は免疫組織学的 KGF の発現と正の相関を示し、免疫組織学的 K-sam 発現との間にも正の相関が示されたことから、血清 KGF 値とびまん性浸潤癌腫との関連性が示唆された。また癌の進行度には関連性を認めないことから、スキルス胃癌などの予後不良なびまん性浸潤胃癌が進行癌となる前段階でそのポテンシャルを拾い上げる可能性が示唆された。</p> <p>以上、本論文は基礎的、臨床的に極めて価値ある論文である。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			